

第6回理事会(臨時) 議事概要

1 開催日時 令和7年1月28日(火) 15時00分～16時30分

2 開催場所 Japan Sport Olympic Square 14階 岸清一メモリアルルーム(東京都・新宿区)
次の役員は、自宅や職場、出張先からWeb会議システム(インターネット回線を使用した音声と映像を伝達するシステム)により参加すると同時に適時的確な意見表明が互いにできる状態となっていることを確認した。

小 谷 実可子	伊 東 秀 仁	太 田 雄 貴
原 田 雅 彦	服 部 道 子	松 田 丈 志
村 井 満	塗 師 純 子	

3 出席者 理事総数 30名
出席理事 25名

副 会 長	三 屋 裕 子	副 会 長	酒 井 邦 彦
副 会 長	横 井 裕	専 務 理 事	尾 縣 貢
常 務 理 事	北 野 貴 裕	常 務 理 事	小 谷 実可子
常 務 理 事	星 香 里		
理 事	荒 木 絵里香	理 事	伊 東 秀 仁
理 事	岩 渕 健 輔	理 事	太 田 雄 貴
理 事	岡 本 友 章	理 事	栗 原 美津枝
理 事	杉 山 文 野	理 事	須 藤 実 和
理 事	田 口 亜 希	理 事	谷 本 歩 実
理 事	土 肥 美智子	理 事	原 田 雅 彦
理 事	服 部 道 子	理 事	古 谷 利 彦
理 事	松 田 丈 志	理 事	水 鳥 寿 思
理 事	村 井 満	理 事	八 木 由 里
監 事 総 数	3 名		
出 席 監 事	2 名		
監 事	工 藤 陽 子	監 事	塗 師 純 子

4 議事の経過の要領及びその結果

理事職務権限規程第4条「副会長は会長に事故あるとき又は会長が欠けたときは、あらかじめ理事会が定める順位に従い、その職務を代行する。」との規定に基づく決議により、三屋副会長が会長職の代行を務めること、及び、定款第29条第2項及び第3項「会長に事故あるとき、又は欠けたときは、会長があらかじめ指名した理事が理事会を招集し、議長を務める」との規定に基づき、三屋副会長が本理事会の議長を務めることを報告し、審議に入った。

5 議 案

(1) 第2次JOC中期計画(2025-2028)について

・2023年9月から検討を開始し最終案を作成。3月の理事会で報告、その後公表する。

(2) 令和6年度スポーツ団体ガバナンスコード適合性審査委員会による対象団体の審査について

・統括各団体での承認後、3月に公表予定。

(3) 第25回オリンピック冬季競技大会(2026/ミラノ・コルティナ)TEAM JAPAN 公式服装選定委員会の設置について

- ・ミラノ・コルティナ 2026 冬季大会 TEAM JAPAN 公式服装選定委員会の設置、委員を提案。

【決議内容】

- ・ミラノ・コルティナ 2026 冬季大会 TEAM JAPAN 公式服装選定委員会の設置。
- ・委員は以下のとおり。

委 員	尾 縣 貢	専務理事、選手強化本部長
〃	伊 東 秀 仁	理 事、選手強化副本部長、 ミラノ・コルティナ 2026 対策プロジェクトリーダー
〃	藤 原 正 樹	JPSA 常務理事
〃	大日方 邦 子	JPSA 理事、パラリンピアン
〃	堀 島 行 真	アスリート委員、オリンピック
〃	米 山 知 奈	アスリート委員、オリンピック
〃	遠 藤 純二郎	TEAM JAPAN ブランドマネジメントディレクター
〃	菊 間 千 乃	弁護士
- ・委員長を委員の互選で決定すること
- ・TEAM JAPAN 団長を選出した際には団長も委員として加えること
- ・委員の追加・変更がある場合は、三屋副会長、尾縣専務理事・選手強化本部長、 TEAM JAPAN 団長に決定を一任すること

(4) FISU ワールドユニバーシティゲームズ(2025/ライン・ルール)TEAM JAPAN 編成方針について

- ・2025 年 7 月 16 日から 27 日まで、FISU ワールドユニバーシティゲームズが開催。競技はパラリンピックの車いすバスケットボールを含む 18 競技 251 種目、最大 8,500 名が参加予定。
- ・TEAM JAPAN 編成方針について、以下の通り提案する。
TEAM JAPAN は「人間力なくして競技力向上なし」を根幹に据え、行動規範を遵守し、各国・地域との友好親善に寄与できる選手と監督・コーチ等をもって編成する。
TEAM JAPAN の選手は原則として現役大学生とし、将来オリンピック等国際大会で活躍が期待できる者として推薦された中から選考する。
- ・すでに対象競技の NF に参加意思を確認しており、車いすバスケットボール 3x3 についても出場希望があるため、今後 JPC と調整し手続きを進める。

【決議内容】

- ・FISU ワールドユニバーシティゲームズ(2025/ライン・ルール)TEAM JAPAN 編成方針の承認

(5)令和 7 年度 JOC エリートアカデミー入校生について

- ・エリートアカデミー事業に参画している 6 競技団体に 5 競技団体(レスリング競技、卓球競技、フェンシング競技、ライフル射撃競技、アーチェリー競技)より推薦があった。
- ・3 回の選考を経て、7 名を推薦する。
- ・今年度より NTC での体験入寮を実施し、競技面に併せて生活面の様子を NF 内で確認したうえで推薦をあげていただいている。
- ・第 18 期生 7 名の入校により、6 競技計 22 名(男子 4 名、女子 18 名)の予定。

【決議内容】

- ・エリートアカデミー第 18 期生として 7 名を承認する。

(6)給与規程の改訂について

- ・給与規程に関して、管理職が 60 歳に到達した年度末で役職手当の支給がなくなることに伴い、副部長、マネージャーへの固定時間外労働手当の支給を 60 歳の年度末までとする。
- ・子供手当の対象を明確化し、期末手当の支給日が休日の場合、直後の平日に支給する。

【決議内容】

- ・給与規程を承認する
- ・令和7年1月28日より施行する。

6 報告事項

(1) 国際総合競技大会関係について

1) FISU 冬季ワールドユニバーシティゲームズ (2025/トリノ) 大会報告

1月23日に閉幕したトリノ冬季FISUゲームズで、TEAM JAPANは選手111名、役員58名の計169名で参加。スローガン「One Team～挑戦～」のもと、会場が分かれていても一体となって競った。団長賞は、初メダルでチームを勢いづけたモーグルチーム、男女アベック優勝を果たしたフィギュアチーム、リザーブから出場し優勝した女子カーリングチームに授与。ドクター陣もリモートやSNSツールを活用しながら選手を支援し、次のミラノ・コルティナ2026冬季大会に向けた医療体制のモデルとなる取り組みを行った。

2) 第9回アジア冬季競技大会 (2025/ハルビン)TEAM JAPAN 編成

2025年2月7日から14日まで開催されるハルビン冬季アジア大会のTEAM JAPANの編成は、現時点で男子78名、女子73名の選手151名、ATOを含む監督・コーチ等77名の計228名。旗手は、スピードスケートの高橋侑花選手、カーリングの渡邊陽紀選手に決定。2月4日(火)にTEAM JAPANの結団式を開催。

(2) パリ2024オリンピック・パラリンピック TEAMJAPAN 応援感謝イベント実施報告について

「パリ2024オリンピック・パラリンピック TEAM JAPAN 応援感謝イベント」を2024年11月30日に実施。警察や消防署の協力で大きな混乱や事故はなかった。

(3) 選手強化事業関係について

1) NTC イーストの壁崩落事故後の復旧と利用競技団体への対応

昨年11月に東京都北区のハイパフォーマンススポーツセンターNTC イースト棟で壁崩落事故が発生。幸いけが人はなかったが、NTC イーストは安全確保のため閉鎖され、文部科学省調査チームとJSC 事故調査チームが調査し、原因究明と是正工事が行われた。1月16日から専用トレーニング場の利用再開、1月24日からは食堂・宿泊施設も利用可能となった。

2) 令和7年度 JOC ナショナルコーチアカデミー実施概要

令和7年度のスケジュールと受講対象者を報告。対象は、JOC が委嘱するナショナルヘッドコーチやナショナルチームコーチ、2025年度強化スタッフ。

(4) アスリート委員会関係について

1) JOC アスリート委員会選挙の当選人

JOC アスリート委員会夏季大会選挙区選出委員選挙の結果を報告。選挙結果は12月25日に確定したが、正式な就任には理事会での決議が必要となる。

2) The 2nd JOC Athletes' Forum 開催概要

2月16日に「JOC アスリートフォーラム」を開催。JOC アスリート委員会が中心となり、オリンピック研修会を発展させた形で開催する。日本のスポーツ界の課題を共有し、専門家から解決策を提案してもらい、参加アスリートが所属するNFに持ち帰る。アスリート委員会の活性化を図ることを目的としている。

(5) 国際委員会関係について

1) OCA アスリート委員会選挙への立候補

2月7日から開催される第9回アジア冬季競技大会で、OCA アスリート委員会の冬季アスリ

ート選挙が初めて実施。最も得票数の多い1名のみが当選する。JOC アスリート委員会からの推薦で、元フィギュアスケート（ペア）選手の高橋成美さんが立候補。OCAの発表によると、男子2名・女子4名の計6名、5か国の候補者がいる。JOC・NF全体で支援していく。ハルビンTEAM JAPANの原田団長をはじめ、理事の皆さんにも協力と支援をお願いしたい。

2) 2024 JOC/NF 国際情報共有会報告

今回は、パリ大会でのJOCの活動やNFの取り組みを紹介し、今後のオリンピックなどの国際競技大会において、JOCとNF、あるいはNF間の連携の可能性を探る機会として開催。

加盟団体の国際担当役員や関係者が参加し、JOCから「国際戦略とパリオリンピックでの取り組み」についての説明のほか、5つのNFがパリ大会期間中のIF役員選挙活動を含む国際関係活動について報告を行った。グループディスカッションでは「NFが国際戦略を推進するためのポイント」について議論が交わされ、参加者同士が意見を交換した。

3) JOC 国際人養成アカデミー（JISLA）2024 年度報告/2025 年度実施概要

受講者23名全員が年度内に修了。受講者の満足度は非常に高く、過去のアカデミー修了生が国際スポーツ組織のポストを獲得する動きも着実に進んでいる。

令和7年度のアカデミーは、趣旨や受講対象者、カリキュラム構成の方針に大きな変更はなく、従来通りの内容で実施する予定。受講対象者には、IF/AFの委員会委員ポストを目指す人だけでなく、国際審判や国際競技役員を目指す人も含まれることを明記する。

(6) マーケティング関係について

・ 2025-2028TEAM JAPAN ネクストシンボルアスリートの認定

TEAM JAPAN ネクストシンボルアスリートは、「高い競技力と人間力を活かし、充実した人生を歩む、憧れの存在となるアスリートを育てる」というJOC Vision 2064の活動指針に基づき、将来的にTEAM JAPANのシンボルアスリートとして活躍し、スポーツの価値を社会に伝える役割を担うアスリートを認定するプログラム。TEAM JAPAN シンボルアスリートのお披露目を春頃に予定しており、ネクストシンボルアスリートの発表もこの時に行う。

(7) JOC コミュニケーション戦略について

パリ2024大会では、「一歩、踏み出す勇気を。」という統一コンセプトを設定。アスリートの発信を通じてTEAM JAPANの目指す姿を明確に伝えた。大会後の振り返りでも一体感の醸成や施策の進めやすさが評価され、ミラノ・コルティナ2026冬季大会でもコンセプトを設定することにした。より多くのステークホルダーを巻き込むことを目指し、ミラノ・コルティナ2026大会のコンセプトを「ともに、一歩踏み出す勇気を。」と決定。ターゲットは次世代の若者とし、最終ゴールを「観戦から参戦へ。1億2000万人をひとつのチームにする」とした。今後このコンセプトを具体的な施策に落とし込み、ロサンゼルス2028大会に向けた検討も進めていく。

(8) 誹謗中傷等からアスリートを守るための法務等支援事業について

パリ2024大会では、SNS上でのアスリートへの誹謗中傷が問題となり、11月の理事会でスポーツ庁の相談窓口設置に向けた財源要求について報告。その後、国の2024年度補正予算が成立し、JOCとJPSAに対して2億円の補助が計上され、オリパラ一体で対応を進めるよう要請された。JOCはスポーツ庁やJPSAと連携し、勉強会を開催。法的定義や関係団体の取り組みを共有し、相談窓口の体制や必要な施策を検討。JPSAと協力して迅速に対応していく。

7 その他

- ・第7回理事会（定時）は3月25日(火)15時00分から開催。

以上